

真宗における本尊

藤田 宏達

目次

はじめに

- 御本尊動座式にあたって 1
- 一 阿弥陀仏とは？
- 阿弥陀仏の原名 4
- 浄土三部経における仏名 10
- アミターユスとアミターバ 16
- 阿弥陀仏の由来 23

二 本尊とは？

■ 名号本尊	33
■ 六字・八字・九字・十字の名号	38
■ 方便法身の尊号	44
■ 「正信偈」の本尊	48
■ 本尊は掛けやぶれ	52
■ 本尊は南無阿弥陀仏	56
■ あとがき	64

はじめに

■ 御本尊動座式にあたって

宗祖親鸞しゅうそしんらんしやうじん聖人七百五十回御遠忌法要が、昨日の御正當報恩講の御満座ごまんざをもちまして無事に円成えんじやうし、本日は阿弥陀堂あみだだうより、御本尊をここ御影堂ごえいだうにお迎えすることになりました。

去る三月十一日、未曾有の東日本大震災に遭遇いたしましたして、それによって宗門の寺院、ご門徒の方々も大変な被害を蒙られました。そのよ
うな中で、このたび御本尊動座式が行われ、阿弥陀堂の御修復が予定ど
おり着工されるといふことをごさいます。厳しい状況の中でありますだ

けに、誠に感銘深く、有難いことであります。

この御影堂は、ご承知のとおり親鸞聖人の御廟（墓所）から始まりまして、現在の真宗本廟における帰依処として、聖人の御真影が中央に安置されておりますが、もとより御本尊というわけではございません。私は北海道の寺の住職をしていますが、多分ほとんどのお寺では本堂の中央に阿弥陀如来を安置し、親鸞聖人の御絵像はその向かって右側に奉安して、祖師前と申していると思えます。この御影堂の修復中には、御真影が阿弥陀堂に動座されましたが、その際は一般寺院の本堂とはほぼ同じ形で安置されました。

ただ、ご本山は、歴史的な事情によりまして、古くから親鸞聖人の御真影を安置する御影堂と、御本尊阿弥陀如来を安置する本堂である阿弥陀堂の二つのお堂がございます。しかもこの御影堂は阿弥陀堂よりはるかに大きく、ご本山にお参りする人は、御影堂の親鸞聖人の御真影があったかも御本尊であるかのごとくに思われる方も少なくないと思えます。しかしながら、今申しましたとおり、御本尊は阿弥陀如来であり、本堂の阿弥陀堂に安置されています。ですから、阿弥陀堂の御修復のため、御本尊が本日御影堂に動座をされたというわけであります。

当日の記念法話は、「御本尊をお迎えして」という題でお話をさせていただきましたが、後日、本冊子を出版するに際して、応分の加筆が求められましたので、書題を「真宗における本尊」に改め、所定の紙幅内で、以下増補して述べることにしたいと思います。

一 阿弥陀仏とは？

■阿弥陀仏の原名

御本尊は「阿弥陀如来」と申し上げますが、まず「阿弥陀」というのは、インドの言葉を中国で漢字をもって音写した仏名であります。インドの言葉にはいろいろありますが、釈尊（お釈迦さま）の時代よりはるかに古くから用いられていた代表的な言語は、サンスクリット語（梵語）でありますので、「阿弥陀」もサンスクリット語（またはその俗語形）で発音された原語を聞いて、それを漢字であらわした音写語と考えられます。

次の「如来」は、サンスクリット語でタターガタ (tathagata) という語、これは「そのように来られた方」あるいは「そのように去られた方」という意味ですが、この語を中国で翻訳して漢字であらわした意識語です。漢語としての「如」には、「真如」「真実」というような意義を含みますから、「如来」は「真実の世界から来られた方」というふうに解され、サンスクリット語の原意にほぼ対応しています。この「如来」という呼称は、すでに釈尊の時代から、修行を完成した人を指して使われており、「仏」と同義語的に用いられています。「仏」とは、申すまでもなくブツダ (buddha) を音写した語で「目覚めた方」「さとった方」（覚者）でありますから、「阿弥陀如来」は一般に広く知られている「阿弥陀仏」と同じ仏名ということになります。

さて、「阿弥陀」についてですが、サンスクリットの原名では二つあります。一つはアミターユス(Amitayus)。もう一つはアミターバ(Amitābha)。この二つの名を共に音写したのが阿弥陀と呼ばれているのです。

このうち、二つの原名に共通しているアミタ(amita)という語は、「量はかられた」という意味の過去分詞ミタ(mita)に、否定を示す接頭辞ア(अ)を付けた語で「無量の」という意味です。この語の後に、「寿命」を意味するアーユス(ayus)を付けて合成した男性名詞がアミターユスであり、「無量なる寿命を持てる方」、寿命無量の仏を意味しております。もう一つのアミターバというのは、同じようにアミタという語の後に、「光明」を意味するアーバー(abh)という語を付けて合成した語ですが、仏名としては男性名詞になりますから、合成語の後のアーバー

がアーバ(aba)に変わって「無量なる光明を持てる方」、光明無量の仏を意味します。一般に、「阿弥陀」といえば、サンスクリット語のアミタと発音が似ているので、この語を音写したもので「無量」という仏を指すのではないかと推測する方々が意外に多く見受けられますが、決してそうではありません。「阿弥陀」というのは、寿命無量のアミターユスと光明無量のアミターバの両方を同じように音写した仏なのです。

ただ、阿弥陀という二つの漢字が、どうしてこの二つの仏名を写しとったのかということにつきましては、実は学問的に面倒な議論のあるところですので、ここで詳しくは省略いたしますが、その代表的な見解に少し触れさせていただきます。

先ほどアミターユスとアミターバがアミタという語の後に、アーユス